

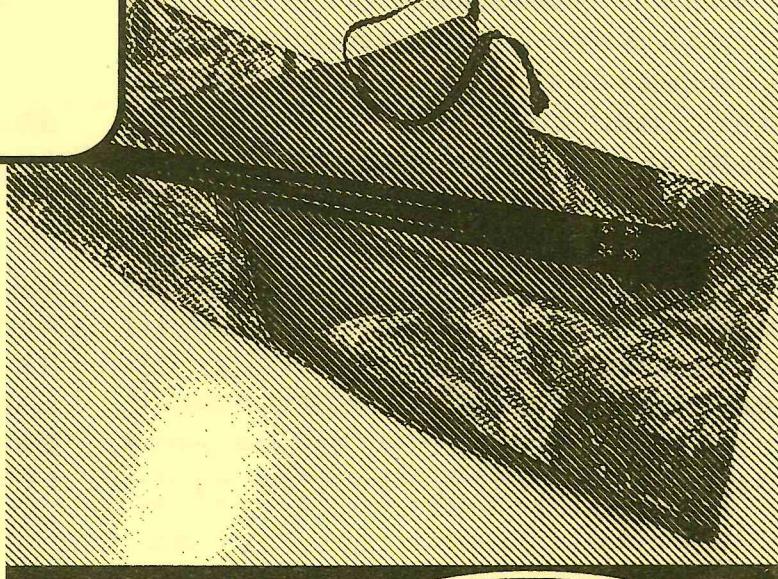
2010年9月1日 Vol.71

# みやぎんぐ

俊

【題字】谷川俊太郎さん

MY FAVORITE お気に入り小物拝見



理事対談のゲスト安海賢さんは、NPO賢和会「男の台所」の代表を務めています。安海さんのお気に入りの小物はマイ箸。「安海」と名前が刻まれた箸は、賢和会「睦グループ」の方からいただき、箸袋は奥様からの贈り物だそうです。どこに行くにも欠かさず持ち歩いています。食べることが好きな安海さんらしい小物でした。小物から家族や人とのつながりを大切にする一面がつかがえました。

## ■目次

- P2~3 理事対談  
(NPO賢和会「男の台所」代表  
安海賢さま×常務理事 紅邑晶子)
- P4~5 せんだい・みやぎNPOセンターの事業から  
(2010年6月—2010年7月)
- P6~7 ソーシャルビジネス・トレーニングジム「プラスコおおまち」  
「プラスコおおまち」オープンに寄せて
- P8…… 新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

# 理事対談

## 「男にこだわり、男目線でアクションを」

今回は、N P O男の台所「賢和会」の代表安海賢さんと当センターの紅邑理事の対談でした。活動を次世代に引き継いだ事や長年に渡り活動を続けられてきたコツなど、男性の視点を大切にして活動を続けていくことについて伺いました。

### ■高齢者と次世代の高齢者をつなぐバイオニア

紅邑／安海さんが男の台所を始めたきっかけについては伺ったことがあるのですが、今まで活動を続けられてきたコツや最近男の台所の活動を次の世代にバトンタッチされたと聞きましたので、今日はそのあたりを伺いたいですね。

安海／続けられたコツは私の考えたかの根底にある思いです。それは人と人・世代をつなぐということです。私たちは高齢一期生(註1)なんですよ。今の後期高齢者はこの大半にあたります。この世代は戦争を小学校生のうちに体験し、終戦後の「何でもあり」な混乱の時代を生きてきました。しかし、人生の設計図に高齢社会を生きることは描けていませんでした。予期せぬ長生きに戸惑い、申し訳ないとさえ思っているのが1期生です。今後、2期生、3期が順番に支え合う仕組みづくりが急務です。その橋渡しは昭和一桁世代の私たちです。

紅邑／以前安海さんは、自分たちの世代を対象にして起こす事業は、何でもバイオニアだと話していたことがありましたが、いまのお話を聞いて納得しました。

安海／そうなんですよ。有史以来人類が始めて手にした「高齢社会」ですから、この世代を対象にしたビジネスモデルが無いわけです。ですから何でもありで、すべてがバイオニアになるんです。

### ■起業から見えた高齢者の実態

紅邑／世代をつなぐ役割を果たしたいという思いから男の台所を始められたとのことでしたが。

安海／一挙に男の台所を始めたわけではなくて、退職後人並みに「ガンセンター」に入院しました。無事帰還できたら、何か社会に恩返しをしようと家内と考えていました。2000年に介護保険制度の導入があり、仙台市では本格的な高齢化に対応する「配食サービス」のボランティア団体を募集していることを知りました。幸いにも仙台市高齢福祉課の先駆的事業の推薦を受け、配食サービスを始めたんです。

紅邑／仙台市では介護保険制度が無いときからN P Oが配食サービスを行っていました。これに対して仙台市では補助金を出していたし、早い段階で地域の人たちのためにとサービスの構築を作っていたことがあったから、全国から見ても仙台市はすばやくシフトできたんですね。

安海／健康と食に関心を持っていたので、この情報をキャッチした時に「これだ」と思いました。あまりに急なことだったので、準備ができずに夫婦で費用を工面して始めたんです。

紅邑／起業したということですよね。

安海／そうです。起業したんです。350万円で仕出しができる設備を作ったんですよ。

紅邑／簡単に工面したといわれていますが、以前から何かを始めようと準備していたんですか。

安海／いいえ。がんの保険金や退職金などをこれにあてました。もちろん、家内とじっくり話し合い2人の名前の1字と活動拠点が広瀬川沿いだったのでグループ名を「賢和会ひろせグループ」と名づけました。

紅邑／何かを始めるとときは思いとお金と仲間と場所が必要ですね。思いとお金は揃いましたが、場所と仲間はどうしたんですか。

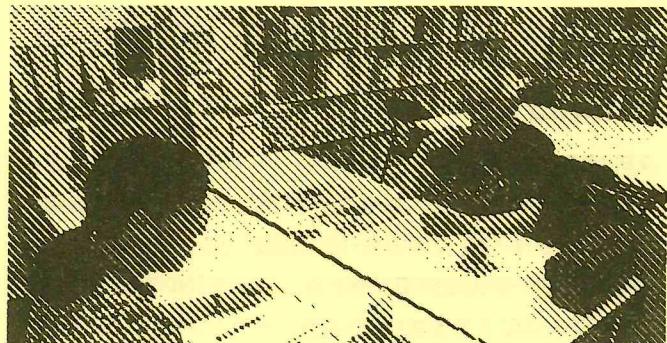
安海／場所は5坪弱の土地を借りることになっていました。本当は、そこで娘と花屋か郵便局などと思っていたんです。人は、以前教員をしていたときの教え子達のP T Aのお母さん達が核となって始まつたんです。子どもも巣立つてちょうど何かしたいという時に当たつたんです。最初は10人ぐらいのメンバーがボランティアとして参加してくれました。

紅邑／なるほど、ちょうどいい時期だったんですね。情報はどうやって集めたのですか。

安海／情報は新聞で先進的な高齢者配食ボランティア活動を行っていた「あかねグループ」の門をたたきました。代表の藤田さんにいろいろ教えてもらいながら、配食サービスの連携組織である「食事サービスネットワークみやぎ」に入れてもらって育ててもらつたんです。

安海／配食を始めて高齢社会の現実を目の当たりにして、気がつ





いたことは高齢者、取り分け男性の食の自立が身についていないことが、老後の生活の質の向上を大きく阻害している実態を知りました。それに明治以降の性別役割分担の名残りが老いた女性を苦しめていることも実感しました。高齢者ほど男女共同参画社会を實現しなければいけないと感じたんです。生活の質の基本は「健康」、それを実現することが大切だと感じて、料理の作り方や、栄養などの基礎知識を学ぶ「男の台所」を考えたのです。この男の台所の発想にたどり着くまでに約2年かかりました。なぜ男子が厨房に入らないのか、入れないのかという答えがなかなか出なかつたんです。答えは簡単で、男性は作り方を習わなかつただけだつたんですね。

紅邑／先ほど安海さんがおっしゃった高齢第一期生の前の世代の方は、家の手伝いや厨房の入ることを認めることができないといふべきですよね。そういう中で、2年をかけて次の世代につなぐ場を作ったことで、入ってくる方はスムーズに入れたのではないでしょうか。

安海／同じ年代の男同士で、同じ話題で話もできたのでよかったです。

### ■コンセプトだけをバトンタッチ

安海／男の台所のコンセプトは食の自立、仲間づくり、社会貢献の三本柱です。のこと以外は男の台所を進化させるための方策として自由にということにしてバトンを渡しました。

紅邑／活動の目的などの思いのすり合わせを行っているとバトンタッチもスムーズなんですね。男性が何か始めるときのポイントだと思うのですが、リードする人とそれに従う人の両方がいますよね。

安海／そうなんです。高齢者になれば経営者と従業員みたいな感じではなく同士感覚ですね。私たちはなんでもありだと考えて、計算せずに損をすることに対するあまり抵抗が無いんです。無いものねだりをしないので、ある条件の中で知恵と工夫で対応できますから。

紅邑／そうは言っても組織が大きくなると、自分達と感覚が違う

人たちが入ってきたときにどうしていますか。

安海／難しいですね。今の組織は創業の時から見ると確実に進化していますね。経営主体が替われば当然です。男の台所を二代目に引き渡した後は一度も顔を出して無いです。行くと口を出したりしますからね。信頼して任せたのでこれでいいんです。

### ■男のフィルターで「終の棲家」プロジェクト

紅邑／バトンタッチをした後に考えている「終の棲家プロジェクト」の準備をしていると聞いていますが、ゴールをどこに考えているんですか。

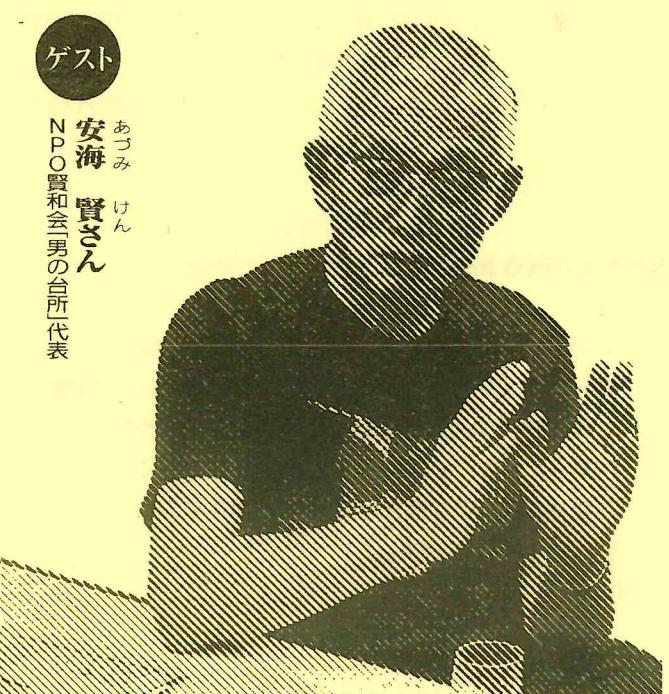
安海／まだ準備段階ですが、基本原則は年金で生活ができる。看取りまでやること。世代を超えた支え合いという現代版長屋方式です。一番のこだわりは「男の台所」っぽくという部分です。全てのことを男というフィルターを通して見て、そこでアクションを起こすことです。例えば現在社会問題になっているDVや介護など、女性が被害者になっているケースが多くありますが、これからは男性も被害者になることがあると考えています。

紅邑／今まででは、どうしても女性目線の男女共同参画の考え方が多くたけれど、今はやっと男女だけではなくマイノリティなども含めて多様に考えられる社会になってきました。今はある意味で男性よりも女性の方が元気がありますね。今後は安海さんのような活動が盛んになると思います。(記録・編集:浪越茂)

註1 高齢1期生:昭和8年生まれまで。旧制中学最後の卒業生。

高齢2期生:昭和20年生まれまで。戦前・新制中学入学生。

高齢3期生:昭和21年以降、戦後生まれ。



## 「いのち」を考えるトークライブ、 「プロペラトークス」

昨年春から開催の「プロペラトークス」。お陰さまで順調に回を重ね、今年8月末時点で第7回が終了しました。昨年度のトータルコンセプトは「いのち」。今年度、「いのち」はそのままにサブコンセプト「いきる」を加え、ますます力強いメッセージを発信して参ります。

### ■トークゲストの決定

トークゲストをお招きし、「いのち」について考えるこのプロペラトークス(以下プロペラ)。毎回の様子は、この「みんみん」誌上にてご報告済みですので、今回もプロペラ開催までの裏側をご紹介致します。まずはゲストの選定です。担当スタッフが集まり、「いのち」「いきる」という観点から、お話を伺いたい方をそれぞれ発表していきます。前回とゲストのジャンルが偏らないよう1名を選び、すぐに本人と交渉を始めます。この時、物理的距離や著名度、当センターとの関係の有無に関わらずアプローチします。(プロペラの怖いもの知らずの部分です。)今までのゲストの方は全員快諾くださいました。

### ■「場」(会場)の決定

プロペラがこだわるものに「場」があります。あえて会議室を避け、飲食ができる日常空間を会場にしています。それは、堅苦しい雰囲気ではなく、お酒も伴いリラックスした状況で、参加者同士が深く「いのち」について語り合えたら、という少数定員制と同様のコンセプトから来るものです。偶然隣に座った方と「いのち」について想いを交わす。なかなか珍しいこんな状況も、話しやすい雰囲気の中、プロペラという「いのち」をコンセプトにした集まりならではと自負しています。

### ■参加者が創るトークイベント

プロペラは、当センターのプロペラ担当者だけで作っている訳ではありません。先日は、とある店(お酒を飲めるバー)を会場に、「プロペラ会」を催しました。これは、今後のプロペラをどうしていくか、皆さんからアイディアを募ろうということで催された会です。お陰さまで活発な意見が交わされ、早速そのアイディアは次のプロペラに反映されました。

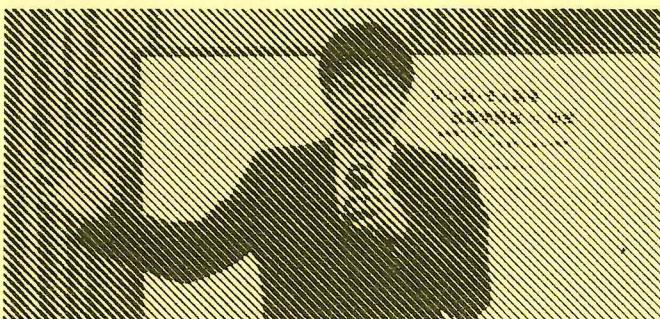
(小川真美)

## NPO税・法人制度改革学習会 in 仙台

7月16日(金)、仙台市市民活動サポートセンターセミナーホールを会場に、「NPO税・法人制度改革学習会 in 仙台 ~新政権でどう変わる? NPOを支える税・法人制度~」を開催しました。これは当センターが地域幹事団体となっている「NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会」の全国キャラバンの1つとして行われたもので、約40名にご参加いただきました。

### ■認定NPO法人に挑戦して

まず、宮城県における認定NPO法人第一号となった(特活)みやぎ発達障害サポートネットの伊藤あづさんと三浦忍さん事例報告をしていただきました。認定NPO法人取得のメリットは寄付金を得やすくなるということだが、認定に挑戦することによって団体の組織力が格段に上がったことが成果であるという話が印象的でした。



### ■NPOの税・法人制度改革の行方は

続いて(特活)シーズ・市民活動を支える制度をつくる会の関口宏聰さんに、NPOの税・法人制度改革の現状と今後の見通しについて報告していただきました。

政府税制調査会の市民公益税制PTの中間報告や「新しい公共」円卓会議の「新しい公共」宣言で、寄付税制の抜本改正の方向が打ち出されたが、これを実現していくためにはまだいくつかの関門があり、運動を盛り上げていくことが大事であるとのことでした。

そして、NPO側として今後必要なのは、多くの市民・NPOの参加と声の可視化、制度設計に必要な実態調査、制度活用実績の積み上げ、意識改革と資金確保、NPO会計基準の普及などであるとのこと。それらを通してNPO法人の信頼性を向上させ、制度改革につなげなければなりません。

最後に質疑とディスカッションを行い、参加者から意見を出していただきました。今回の学習会を機に、宮城からも制度改革への機運を盛り上げていきたいです。(布田剛)

## せんだいCARES キャンペーン

今年で8回目を迎えるせんだいCARESは、仙台のNPO、市民活動団体の活動を市民のみなさまにご紹介する、年に一度のキャンペーンです。今年は、2010年10月1日(金)～12月17日(金)をキャンペーン期間としてフリーペーパーの配布や各種イベントなどを実施いたします。

### ■今年もフリーペーパー25000部を制作

せんだいCARESでは毎年キャンペーンを開始する日に合わせてNPOや企業の社会貢献活動の情報を掲載したフリーペーパーを作成しています。キャンペーン期間中に行われるイベント情報や、NPOを運営している人のインタビュー記事のほか、様々なジャンルのNPOの団体活動情報、電話相談窓口の情報などがぎっしりつまつた1冊です。10月1日に行われる仙台市市民活動サポートセンター地下で行われる、オープニングイベントで配布が開始されます。

### ■今年のせんだいCARESのTシャツは AZOTH(アゾット)デザイン！

毎年作っているキャンペーンのTシャツ。今年のデザインは、仙台卸町のTシャツ制作集団AZOTHさんに依頼しました。デザインは、有名なミュージシャンや人気ブランドのデザインを手がけている浅野美智男さん。伊達政宗のシンボルの「月」と「仙台のまち」をモチーフにカラフルな素敵なTシャツを作ってくれました。(CITYSブログで紹介中です。)すでに、ベガルタ仙台戦で販売開始しておりますので、残数わずかになる前に、お求めご希望の方は事務局までご連絡ください。

### ■学生ボランティア体験CARESケアーズ

せんだいCARESに参加している団体で、学生がボランティア体験をするというCARESケアーズ。今年は仙台市と(株)デュナミスと協働で実施されることになりました。

若い世代の力は、これから仙台のまちづくりを進めるにあたって大きな原動力となります。そこで、未来を担う若者の地域活動への参加を応援する施策として、新たに「学生とNPO等を結びあわせるインターンシップ推進モデル事業」を実施します。CARESケアーズはこの事業の入門コースとなります。

(田内亜紀子)

## ネットワークを重視した ソーシャルビジネス支援

当センターが組織をあげて注力しているソーシャルビジネス(以下SB)支援。複数のプロジェクトが並行して動いており、支援対象などはそれぞれ異なりますが、“ネットワークを重視した支援”という点で共通しています。

### ■せんだいみやぎが手がける支援のカタチ

例えば内閣府の受託で実施するSBの「起業支援プロジェクト」があります。SBのビジネスプランコンペティションを実施し、審査通過者を起業まで支援するこのプロジェクト。起業支援金の提供だけでなく、審査通過者が居住する地域の先輩経営者や専門家がマンツーマンで支援するのがポイントです。

また全国の社会起業家を発掘し、企業や一般市民など様々な人の前で想いやアイデアを語って頂く「社会イノベーター公志園」。このプロジェクトの一番の狙いは、社会起業家の周りに共感・応援のネットワークを形成すること。そのネットワークが、カベに突き当たっている社会起業家たちを次のステージに飛躍させる力になるという思想です。

これら以外にもSBのインキュベート施設「プラスコおおまち」や、宮城県におけるSB支援組織の構築に取り組んでいます。「プラスコおおまち」では従来の箱貸し型の施設ではなく、入居者同士の関係性というソフト面の価値を重視。SB支援組織も単発のイベント実施になりがちな「支援者側の組織」ではなく、これからSBを起こしたい人、実際に起こした人、応援したい人による「事業者間のネットワーク」を基本コンセプトとしています。

### ■ネットワーク型支援の意義

ネットワーク型支援重視の理由として、1つは社会貢献性と収益性を両立させなければならないSBは、あくまで一般論ですが、従来のビジネスと比べて難易度が高いため。困難だからこそ様々な人によるサポートが必要だという考え方です。

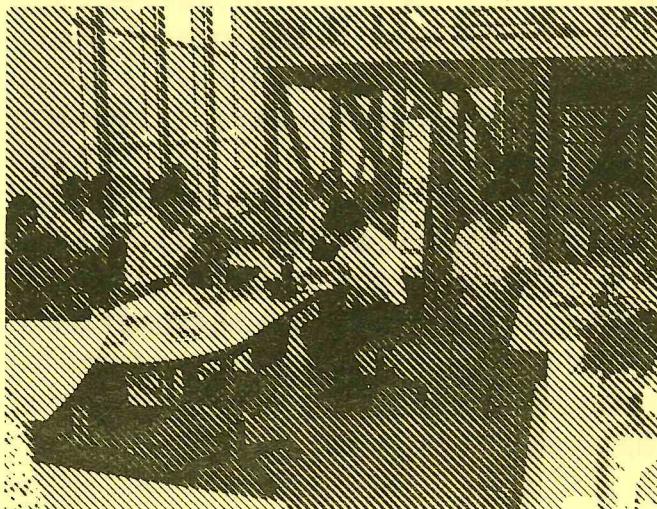
もう1つは、様々な人に応援してもらいやすい側面があるため。社会的な意義を前面に押し出すSBゆえの利点を活かす支援のあり方が、ネットワークという発想ではないでしょうか。

(大橋雄介)

# ざわざわ、そわそわ、ウキウキが反応しはじめた、 青葉区大町2丁目のフラスコ空間。

～ソーシャルビジネス・トレーニングジム、8月27日「フラスコおおまち」オープン～

前回の事務局通信「みんみん」にて、お知らせしておりました「フラスコおおまち」ようやく姿形が見えてきたところで、7月10日(土)に当センターゆかりの評議員の方やマスコミ関係の方をお招きしてお披露目の会を開催いたしました。土曜日の午前中という時間帯にも関わらず、19名のお客様と岡元タイルさんの関係者や当センターの理事・スタッフなど総勢28名の集まりとなりました。前日は、大町事務局スタッフが汗をかきかき大掃除をして、おもてなしの準備をしておりました。また、当センターが大変お世話になっております、IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]の川北秀人様からは素敵な花瓶のプレゼントを頂戴しました。そして、「FOR YOU にこにこの家」の小岩様、「せんだい杜の子ども劇場」の斎藤様、「みやぎ発達障害サポートネット」の伊藤様のお3人より当センターのオフィスに初登場の胡蝶蘭をあしらった香りの素晴らしいお花を頂戴しました。ほかにも、お



祝いムードで和菓子やバラの花の差し入れをいただき、にぎわいのある会場となりました。

はじめに当センター代表理事の大滝より「フラスコおおまちは、ソーシャルビジネスを応援する施設ですが、それを運営する当センターのこの事業自体も、ある意味ソーシャルビジネス。どうぞ皆さんのお力を貸して頂きたい。」と挨拶させて頂きました。引き続き、岡元ビルオーナーの株式会社岡元タイルの古積(こづみ)取締役、6月まで岡元タイルにいらした鈴木元常務からもご挨拶いただきました。

「フラスコおおまち」の空間を言葉で表すと、それはまさにお出でになった方々の反応の多様さに尽くると思います。当日お越しいただいた皆様からも、またご欠席の方からも様々なメッセージをいただきました。その内容は、当センターのブログでもご紹介しておりますが、その一部をご紹介いたします。

## ●伊藤あづさま

(認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット事務局長)  
フラスコの中からどんな化学反応が起きて「しあわせ」と「あつらいいな」が広がっていくか、と～～つても楽しみにしています。このスペースを創ることに力を合わせてくださった全ての皆さんに感謝です。

●川北秀人さま (IIHOE人と組織と地球のための国際研究所代表)  
ソーシャルビジネス・トレーニングジム「フラスコおおまち」のご開設、おめでとうございます！披露会のご案内、ありがとうございました。地域の人々が育つ(鍛えられる？)場が生まれることにより、地域が耕され、花が咲き続けるまちとなられることを、お祈りしております！

## ●川村志厚さま (経営デザイン研究所所長)

「トレーニングジム」「フラスコ」のネーミングが秀逸です。準備に奮闘された方々、本当にご苦労様でした。ソーシャルビジネスの創出には市民社会の真の成熟が不可欠です。将来に期待しています。

## ●須藤路子さま

(NPO法人山形創造NPO支援ネットワーク代表理事)  
「フラスコおおまち」オープンおめでとうございます。是非、NPOや組織の持つノウハウや人材ネットワークを活かすソーシャル/コミュニティビジネスがたくさん創出されることを望みます。今後ますますのご発展を御祈念致します。

## ●清野興蔵さま (株式会社INK代表取締役)

できたぞ～！4mの木材を非常階段で7階まで運んでくれた皆さん、慣れないノミで柱を削ってくれた皆さん、塗料べたべたになりながら塗装してくれた皆さん、本当にありがとうございます。大町パワーが仙台をおもしろくするぞ～！

## ●武山広美さま

(仙台市市民局市民協働推進部市民協働推進課課長)  
出会いとつながり、そして発信の場として！！みんなで化学反応を楽しんでいきましょう。

## ●山岡義典さま (日本NPOセンター代表理事)

この度は「フラスコおおまち」の開設、おめでとうございます。「トレーニングジム」にふさわしい厳しい厳しい訓練の場となることで、多くの人材を世に送り出す拠点としての発展を祈念しています。

## ●山口哲男さま (日専連仙台理事長)

積極的で先駆的な試みに賛辞を贈ります。多くの人の出会いと社会との架け橋となることを祈ると共に期待致します。

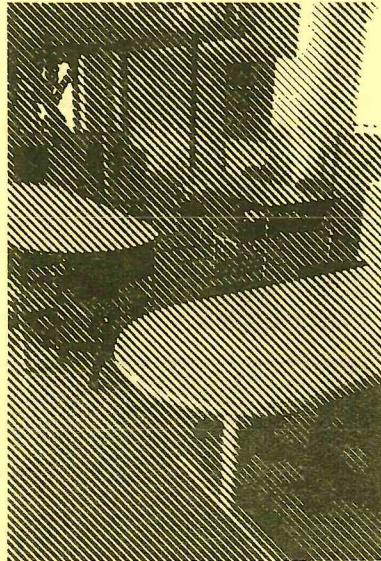
というように、フラスコおおまちで起きる「化学反応」への期待

は大きく膨らんでいるようです。それはお出でいただいた方々の交流の様子からして、人の化学反応(交流)を起こす場ということのようです。

さて、この「フラスコおおまち」もついに8月27日、正式にオープンの運びとなりました。すでにご入居いただいている方もいらっしゃいますが、フリーアドレス会員(月額10,000円)、小ブース会員(月額20,000円)、中ブース会員(月額40,000円)を募集中です。また、追ってセミナー会員(年間:2,000円…セミナー参加費10%オフ)も募集予定です。また、ソーシャルビジネス・トレーニングジムということで、この事業にご協力いただいた皆様や当センター関係者の企業経営者・経営コンサルタント・大学教授の皆様にもお越しいただき、学びと交流と実践の場をフラスコに関わる皆さまとご一緒に創り出していきたいと思います。詳細にましては、担当(小川・紅邑)までご連絡願います。なお、見学

も隨時受け付けておりますので、4階・大町事務局までお越しください。

(紅邑晶子)



## フラスコオープンに寄せて

「フラスコおおまち」のオープンおめでとうございます。現在、社会起業家が着目される中、それらの連携や育成のシステムが求められています。「フラスコおおまち」は、社会起業家の輩出と雇用創出、NPOと地域の活性化を目指した「ソーシャルビジネス・トレーニングジム事業」であり、21世紀における「新しい公共」を具現化するための拠点施設となるものです。「フラスコおおまち」は、その名の通り、様々な社会起業家やそれらを支える専門家、行政、企業、市民等をつなぎ、地域に根付いた社会的事業を生み出す創発空間となることを期待します。「仙台のオフィスシーンの台風の目」となることが期待される「フラスコおおまち」は、せんたい・みやぎNPOセンターのシンボルマークであるプロペラを大きく動かす新たな風となると確信しています。

宮城大学事業構想学部事業計画学科 風見 正三

ある会社を訪問した時に、壁に貼つてあるスローガンが強烈でした。「知恵を持っている者は知恵を出せ、金を持っている者は金を出せ、何も持っていない者は汗を出せ。何も出さない者はここを去れ。」

起業をする、あるいは事業を継続し拡大するという事は、こうした戦いの連続です。強い信念を持って、事業に立ち向かいたい人は今すぐフラスコに。いや、私はそんなに自信はないと思う人は、何となくフラスコに。

人はそれぞれの役割を持っています。自分では発見できなかった新しい魅力や能力が、この戦場では大切な役割となって現れるのです。従つて「何も出さない者は、フラスコ行きだ!」ここはジムですから。

株式会社INK 清野 興藏

この度はソーシャルビジネス・トレーニングジム「フラスコおおまち」の開設、心よりお祝い申し上げます。“フラスコ”の名の通り、本施設にたくさんの市民の方々が集まり、社会課題を解決するさまざまな人的・有機的な化学反応が起こることを楽しみにしております。ソーシャルビジネスに特化したインキュベーション拠点は全国でも稀であることに加え、地元企業との共同事業による空きビル再生・地域活性を図る事業モデルにも大変注目しております。NPO支援・中間支援の先駆的なモデルとして、常に全国から注目を集めてきた皆様が本事業を展開する意味は非常に大きく、社会的企業やNPO等「新しい公共」の担い手の育成・支援に向けて、私たちも皆様とともに地域協働プラットフォームの構築に取り組んで参りたいと思います。おめでとうございます!

株式会社地域協働推進機構 市川 潤

このたびの「フラスコおおまち」オープンにあたり、これまでご支援ご協力を頂戴した多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

思えば昨秋、長年にわたり親密なお取引を頂いていたせんたい・みやぎNPOセンター様を訪問した際、弊社が抱える所有ビルの有効活用という課題を相談し、せんたい・みやぎNPOセンター様の抱く「明日へ向かう情熱」をお話し頂いたときから「フラスコ」は揺れ始めていたのだろうと思います。

揺れ続いたフラスコはやがて、社会への繋がり方が異なる2つの団体を結んでくれます。私達の生成物が「フラスコおおまち」です。

「フラスコ」に飛び込む皆様。皆様にはどんな化学反応が待っているのでしょうか?揺れるフラスコ。とても楽しみです。

株式会社オーカム 鈴木 貴之

## サポート・ご協力 ありがとうございます

### ■平成22年度会員(敬称略・順不同、2010年6月1日～7月31日)

(正会員)渡辺祥子、木幡勝幸、白木福次郎、内海裕一、渡辺博之、川村志厚、佐々木伸、八木健、大須智栄、坂下康子、関口憲一、藤原範典、白川由利枝、中津涼子、八木充幸、真壁さおり、布田剛、(株)東日本放送、青い森アップル環境ネットワーク、(特)あかねグループ、(特)ほっとあい、C.I.したすけっと、(特)多賀城市民スポーツクラブ、(特)杜の伝言板ゆるる、(特)イコールネット仙台(特)ゆうんどあい、(特)やまがた育児サークルランド、(特)でんでん宮城いきいきネットワーク、(特)起業支援ネット、(特)いわてNPO-NETサポート、(特)ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、地産地消を進める会、(特)山形の公益活動を応援する会・アミル、AKK仙台、(特)せんだい杜の子ども劇場、(特)ソキウスせんだい、(特)蔵王のブナと水を守る会、(特)麦の会、(特)いしのまきNPOセンター、(特)住民互助福祉団体ささえ愛山元、(特)パートナーシップ・サポートセンター、(特)M I Y A G I 子どもネットワーク、(特)ハーモニーハウス、(特)みやぎ身体障害者サポートクラブ、子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ、(特)ネットワークオレンジ、(特)グループゆう、(特)市民フォーラム21・NPOセンター  
(準会員)谷川真奈美(2口)、(社)日本損害保険協会(4口)、荒井勝子、愛知絢子、(特)都市デザインワークス、(特)白石うぐいす会、小島妙子、(特)シャロームの会、朝田恵美、横須賀和江、山口宏、食育NPO「おむすび」、鈴木典男、高齢者配食サービスばけっと・はうす、高鷹厚、高清水ソフトウェアーカンパニー兵藤博行、世古一穂、日向則子、高松市ボランティア・市民活動センター、藤田佐和子、公益社団法人仙台青年会議所、鈴木素雄、瀧澤陽子、(社福)仙台いのちの電話

### ■企業・団体協力(50音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

### せんだい・みやぎNPOセンター 総会のご案内

日 程: 2010年9月5日(日)  
時 間: 総 会: 13:30～15:30(受付開始13:20)  
記念講演: 「ITをツールにして多様な人々に  
雇用の機会を-ISFnetの挑戦!」  
15:45～17:45  
株式会社アイエスエフネット  
代表取締役 渡邊 幸義さま  
会 場: 仙台市市民活動サポートセンター6F セミナーホール  
※前回、会員の皆様に会費継続のご案内をした際の内容と変更になりました。

### ソーシャルビジネス・トレーニングジム 「フラスコおおまち」(当センター入居ビル7F) 2010年8月正式オープン!

多くの皆さんに見守られながら、ようやくこの8月下旬に正式オープンにこぎ着けられることとなりました。  
月額1万円台から会員になることが出来ますので、地域のために何か始めたい方、自分から情報を発信したい方、ソーシャルビジネスでの起業を予定されている方など、ご興味のある方はぜひ見学にお立ち寄りください。(要予約)  
問い合わせ: 大町事務局(紅邑、小川)

### 加藤哲夫のNPO経営相談

開催日: 平成22年9月16日(木)  
平成22年10月21日(木)  
開催時間: 13:00～17:00  
場 所: せんだい・みやぎNPOセンター  
相 談 料: 2,500円(1時間単位、会員は500円引き)  
※予約制です。まずはお電話を。

### みやぎ・ソーシャルビジネス・ ネットワークのご案内

9月から宮城県におけるソーシャルビジネスの相互支援ネットワーク「みやぎ・ソーシャルビジネス・ネットワーク」が立ち上がります。これからソーシャルビジネスを立ち上げたい方、すでに立ち上げた方、応援したい方、ご興味があればぜひお問い合わせください。  
問い合わせ: 大町事務局(大橋)

### 連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター  
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F  
TEL: 022-264-1281 FAX: 022-264-1209  
E-mail: minmin@minmin.org HP: <http://www.minmin.org/>

### 発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン  
編集部: 小川真美・紅邑晶子 ここ  
発行日: 2010年9月1日 晩翠通 一番町アーケード  
デザイン: 氏家朗 青葉通 中央通り  
至仙台駅  
藤崎 東急ホテル

岡元ビル4F 仙台駅から徒歩20～25分

### | 編 | 集 | 後 | 記 |

8月初旬より、当センター大町事務局に大学生のインターンが5名(全員男性)来てくれています。息子(!)といつても過言ではないフレッシュな彼らと日々接していると、自分の社会人1年生の頃を思い出します。毎朝、会社のドアを開けるのに緊張していた事、先輩のことばに右往左往していた事、恐る恐る電話をとっていた事。あれから数十年。私は単なる化石ではなく、味のある古漬けのような人間になっているでしょうか…(OGAWA M)

猛暑の続いたこの夏、地球温暖化による自然災害と人災が続いています。そんななかで、先日は「ガイアシンフォニー第3番」という映画を見に行きました。久しぶりに自然と人と宇宙がつながっていることを再確認しました。静かにゆっくりと自然と対話することをこの夏、できればと思いました。(べにむらあきこ)